

作品分析パネル

作品名	担当者名	どう分析したものか
日本工芸館	古本 将大	浦辺の初期の傑作である日本工芸館の三層に積層した鎧型庇や一階の床が地面から持ち上げられている特徴を民家や蔵、五重の塔の様式から引用したのではないかと考察しました。
大佛次郎記念館	鈴木 啓生	大佛次郎記念館に見られるフランスを中心とした欧州の諸建築に関連すると思われる様々な特徴を挙げながら、浦辺さんが目指した生家としての記念館を考察しました。
倉敷ユースホステル	前田 沙希	美観地区の新溪園を庭として思案された配置計画や倉敷の様相が向山に持ち込まれ、建設に至るまでの経緯を考察しました。
紀伊風土記の丘・松下記念資料館	向 咲重	自然豊かな周囲の環境と呼応するようにランドスケープを意識した建築であり、まちなかの建築のあり方を意識していた倉敷の建物群などとは異なるものとして考察しました。
神奈川近代文学館	白 露	浦辺の晩年の作品として、異国情緒を色濃く残された建築である。ほかの作品では見かけない“日輪”式採用するのは、学生時代に感心したアムステルダム派建築の影響？又は時代性に拘らない風土のある建築に対する熱情ではないかと推察した。
倉敷国際ホテル	原 巧	浦辺氏が倉敷で初めて高層建築を設計するにあたり、低層の街並みが形成している倉敷では、街並みに寄り添う高層建築をどのように設計したのか、倉敷国際ホテルの形態や特徴から分析しました。
倉敷公民館	佐塚 将太	倉敷の街並みに建ちつつ、西洋風の銀行とモダニズム風の図書館に挟まれた立地であることに注目し、そこから独自の意匠が生み出されたのではないかと考察しました。
一丁シャンゼリゼ	飯田 康二郎	倉敷の街並みとシャンゼリゼ通りの様々な特徴を挙げ、当時よく見られたまとまりのない日本の都市開発への浦辺鎮太郎なりの批判ではないかと考察しました。
倉敷考古館	長谷川 舞	倉敷の既存の街並みに馴染み、かつ、それからの街の変化にも対応できる外部空間とのつながりを浦辺は考えたのではないかと推察した。
大原美術館分館	渡辺 悠介	新溪園との隣接や美観地区と市街地の境にある敷地の特徴を浦辺さんはどのように捉え、分館を設計したかを中心に分析しました。
横浜開港資料館	梁 訊	ヨーロッパ的な街路型建築と日本の伝統的な長屋門式建築の要素を採用し、建築として横浜の記憶や日本と世界のつながりを浦辺さんは考えたのではないかと考察した。
アイビースクエア	下山 美月	大空間である工場から多室型タイプであるホテルへ機能・類型の変化を中心に、工場村としての背景を踏まえ分析を行いました。当時珍しかったコンバージョンの計画は、後の浦辺作品にも影響を与えたと窺えます。